

「柔」と「剛」を併せ持つ 都市型の木の家

建築例／
静岡市『Leafの家』
文・写真／ココラボ 山崎健治

木の強さと優しさを兼ね備えた住まいは、
安心とやすらぎを与えてくれる。
大きなチャレンジが今、実を結んだ。

1

敷地条件の克服と

Jパネル落とし込み構法の木造3階建て住宅



Jパネルを落とし込んだ建前の様子。初めての試みだったが、手際よく進み無事上棟できた。

1／ 家族の集まる場所は、ダイニングとリビングを兼ねた床座の空間とした。幅広く制作した鬼胡桃の床板の感触が、適度な心地良さを伝えてくれる。

2／ 木製ルーバーの手摺壁が目を引くA邸の外観。モスグリーンのガルパと漆喰壁の切り替えしも有り、変化の有る外観になった。

今回は、今年4月に静岡市の市街地に完成したAさんお宅にお伺いしてきました。『Leafの家』と名付けられたAさんのお宅は、敷地条件を最大限に利用し、杉板3層パネル（Jパネル）の落とし込み構法により建築されました。杉の厚板による落とし込み構法はココラボの得意とする構法ですが、大きな1枚のパネルとなったJパネルの落とし込みは初めての経験でした。そして木造3階建てと言うことも加わり、私にとっても大工にとつても、新たな挑戦のお宅となりました。

今回の計画地になったのは、Aさんのお父さんがお住まいだった静岡市の市街地。近くに大きな道路はあるものの、1本中に入った敷地周辺は閑静な住宅地となっています。住まいを計画するには申し分の無い場所でしたが、今回頭を悩ませたのは、敷地の大きさと道路などからの建築制限でした。

2

「この場所に父との同居を含めた木の家を計画したい。敷地の大きさと要望から、今回の計画が3階建てになることは必至。鉄骨造やRC造（鉄筋コンクリート）も考えたが、やはり木の暖かみのある家に暮らしたい。」木造建築を専門にしている私たちにとってはとてうれいお言葉ですが、木造3階の建築となると今まで通りにはいかないので、やはり大工の木組みを生かした構法としていきたいが、2階建てに比べ構造的な制約があり、また、『剛』としての強さが求められると思いました。

ココラボの取り組む板倉構法に共感してくれたAさんなので、何とか板倉の良さを出しながら3階建てを建てたいと考え、剛性と木の優しさを兼ね備えた、Jパネルの落し込み構法に目が止まりました。この構法は、大阪で活躍されている、Ms建築設計事務所の三澤さんの得意とする構法で、JパネルやDボルトといった部材の開発も進んでいる構法です。幸いにも島田市にはこのJパネルを生産している会社（丸天星工業（株）さん）があり、すでに何度か取引をさせていただいていたので、相談や入手も問題ないと考えていました。

Aさんとも相談し、このJパネルの落し込み構法で行こうと決まりましたが、問題はもう一つ。2方向からの道路斜線をクリアしながらも要望を満たしていく事。特に

北側の道路斜線が厳しく、緩和措置を考慮してもそのままの3階建ては難しい条件でした。そして、2方向の道路に対し、非常用の進入口も2つ設けなくてはならず、外観や室内のボリュームなどと合わせて何度もスタディーしました。最終的には、道路斜線をそのまま利用して勾配屋根を作り、その屋根の中をクローゼットや階段室に利用したり、非常用進入口のベランダに利用するように考えました。高さや納まりを慎重に計画し、スペースを無駄なく利用した空間が出来たと満足しています。

『Leafの家』では、構法やプラン計画の他、使用する素材についても時間をかけて検討していきました。特に床板選びは慎重に行い、杉、桧、ブナ、鬼胡桃など、さまざまな樹種の特性を考えて選んでいきました。最終的には、1階と3階の床に桧を使い、メインの2階広間には鬼胡桃の床板を使用しました。特に広間の鬼胡桃は良材に恵まれ、広葉樹では珍しい幅広い板を使うことができました。また、2階の和室は淡路島の土壁で仕上げました。これは、左官屋さん一押しの上上げで、言葉では表現出来ないような深い色合いの壁になりました。漆喰が光なら土壁は影。陰と陽の混在が上手く表現され、居心地の良い場所を作り出していると思います。



作業性を重視したワークキッチン

全体の計画がまとまった所でいよいよ本格的な打ち合わせの開始。Aさんご夫婦はお料理が大好きと聞きました。栄養士でもあるご主人は、お料理の他にお菓子作りもされとか。実際、打ち合わせ時にいただいたケーキがとっても美味しく、持ち帰らせていただいたケーキは我が家の子供たちにも好評でした。「新しい家になったら、また作ってくださいい」なんて、ずうずうしく言ったのを覚えています。

ココラボでは、お施主さんの好みに合わせて『キッチン造るもの』と考えていますが、Aさんの望むキッチンは少し特殊で、特にシンク形状はお手上げ。と言う事で、二の字型のシンク台に関しては、トーヨーキッチンさんにお世話になることになりました。私が住宅会社に勤めているときに数回お世話になったショールームの女性も運良くいてくれ、また、Aさんの奥さんも昔の知り合いだとか。世の中は狭いね。おかげで話は盛り上がりながらも順調に進んでいきました。トーヨーキッチンさんお勧めの3Dシンクは、シンクの内部形状に特徴があり、リブを利用してスライドできる棚が付いています。棚板はシンクの下段にセットでき、調理に合わせて多目的に使えるのが魅力です。シンクもとても大



きく、お二人でキッチンに立つAさんにはピッタリのキッチンだと思いました。シンク台はトーヨーキッチンさんにお任せしました

が、コンロ台はココラボのオリジナルキッチンです。引出をたくさん造り付け、収納力たっぷりのキッチンが出来上がりました。Aさんのこだわりはもう一つ。窓上に設けたステンレスのパイプ棚です。毎日土鍋でごはんを炊くという事で、この土鍋置き場として利用しています。毎日使うものだから収納するのも難しいと考え、取りやすく乾きやすいパイプ棚の上に置くことになりました。これは、お料理学校の先生の影響だとか。通常鍋などは隠そうと思いがちですが、Aさんのお宅ではとても様になっています。Aさんらしい作業するキッチン、ワークキッチンですね。

3／ 広間とつながった和室。土壁は、左官屋のオリジナル壁で、淡路島の土で仕上げられている。

4／ 3階の一角のスタディースペース。本棚や机を造り付け、家族みんなで使用できるスペースとした。

5／ ワークシンクを中心としたアイランドキッチン。シンクの内側には数段のリブがあり、作業に合わせた棚板をセットできるようになっている。

6／ ガスコンロも機能的な機種を選び、ガスオープンと一体となった設備を導入。

7／ 「見せる」より作業性を重視した機能的なキッチンを目指し、設備や収納、棚板までもこだわって考えた。



キッチンから広間を望む。木の優しさを感じるこの空間にいますと、この家が3階建てだと言う事を忘れてしまう。奇抜な変化は無いが、いつまでも心地良く暮らしていける、そんな家になったと思う。

エネルギーの自給自足

キッチンに加え、Aさんのもう一つの大きなこだわりが、エネルギーの自給自足を考えた家づくり。単に太陽光発電だけの売電を目的とせず、自ら使うエネルギーを作り出す事にこだわりも持っていました。省エネと呼ばれてもう何年も経ちますが、住宅という小さな単位で出来る事は限られていると感じていました。しかし、Aさんの考えは積極的で、小さな単位でも出来る事



屋根に設置した太陽熱温水器の集熱パネル。タンクと集熱パネルが分離されており、屋根の負担も小さく、美観上も向上した。

はやろうと。今回の計画では、太陽光発電2.4kwに加え、太陽熱温水器、雨水利用のタンク埋設工事を行っています。お話を伺ってみると、以前住んでいたアパートに比べ電気使用量が少なく、毎月の使用金額は四千円程(夏の時期)。以前のアパートは風通しが悪くエアコンを使う頻度が多かったけれど、このシーズンは2、3回エアコンを使っただけと伺いました。風の通りがいいので、一日を通して我慢できない暑さではないとか。実際、私達が伺った9月1日も暑い一日でしたが、風の通りがとてもよく、どの部屋でも心地良い風を感じました。使用金額に対し、太陽光発電2.4kwでの売電金額は2倍以上。将来蓄熱電池などを取り入れれば、自らの屋根で、十分自給自足の電気がまかなえますね。

電気に加え、ガスの使用量も低く抑えられています。太陽熱温水器は、天気の良い午前中にはタンク内温度が75度になるようです。今回はスペースの関係で90ℓのタンクを設置しましたが、お風呂を入れるのにちょうどよい量だと伺いました。欲を言えば、もう少し大きなタンクが置けたらもう少し余裕があったのでは? と話していました。お風呂の湯沸しが太陽熱でまかなえると、ガスは主にキッチンのコンロのみで使用されている事になります。こちらはさすがに0にはならないですが、効率の良いガスコンロを選択したり、調理器具を上手

く利用しながら付き合っていただけだと思います。実際、毎月のガス代は五千円程(夏の時期)と伺ったので、ガスを給湯器とガスコンロに使用した通常のお宅と比べて、半分以上は省エネになっていると思います。

太陽光発電、太陽熱温水器は広がりを見せていますが、まだまだ上手く利用できないのが雨水利用。縦樋に小さなタンクを設置して利用する方もいますが、スペースや美観、量の面からも十分とは言えません。



駐車スペースに埋設した雨水タンクの蓋。埋設することで大容量のストックが出来、見た目にもスッキリとした。



太陽熱温水器の貯湯タンク。給湯器を搭載したオールインワン。省スペースで設置できる、狭小地でもお勧めのシステム。



洗車や散水用には、水道水と並べて雨水の水栓を設置した。なるべくなら雨水だけでまかないたいのが、空との相談かな?

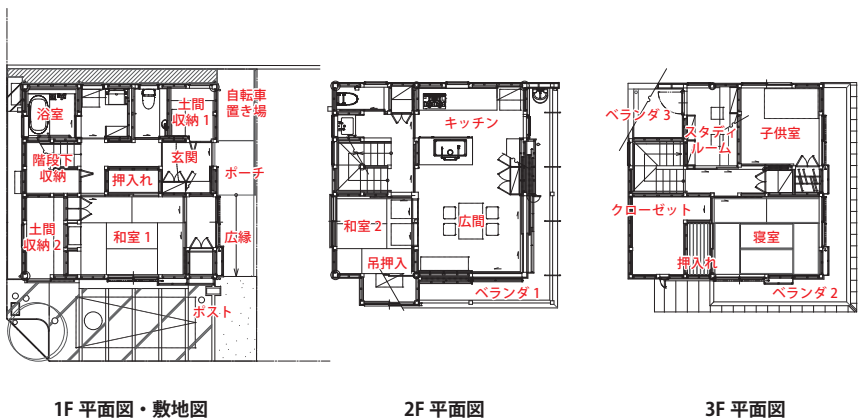


タンク内の温度や量が一目でわかるリモコン。数値で見える事で意識も高くなり、省エネにもつながっている。

チャレンジの家づくり

今回Aさんの家づくりに携わらせて頂き、本当にたくさんのお事を学ぶ事が出来ました。はじめから無理と限界を設けず、ひとつひとつ考え挑戦していく。私たち建築屋にとっても挑戦した家づくりでしたが、Aさんから見れば、もっと大きな挑戦だったのではないかと思います。そして、そんな計画を私たちに委ねてくださり、本当に感謝しています。

心地良く風の通った木の家で過ごす暮らし。その暮らしの裏には、たくさんのアイデアや工夫、そして、多くの人の思いが詰まっています。しかしそんな思いも、子供たちの笑顔を見ると忘れてしまいます。ただただ、子供が笑顔で過ごしてくれれば。そんな思いにもなる家づくりでした。



仕様内容	
家族構成	家族 5 人
敷地面積	81.07 m ²
建築面積	44.28 m ²
延べ床面積	120.09 m ²
構法	J パネル落し込み構法 3 階建て
外部仕上	屋根 ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き 外壁 ガルバリウム鋼板 ラスモル下地 漆喰仕上 外部建具 木製オリジナル建具 桧、ナラ ペアガラス + アルミサッシ (ペアガラス)
内部仕上	天井仕上 杉本実張り 厚 12mm 壁 J パネル現し 漆喰塗り 床 鬼胡桃本実板 厚 15mm 桧上小本実板 厚 15mm 内部建具 オリジナル木製建具
設備	キッチン コンロ台：オリジナルキッチン シンク台：TOYO KITCHEN STYLE 3D シンク 洗面化粧台 オリジナル化粧台 浴室 オリジナル浴室 壁、天井：青森パ 床、腰壁：サーモタイル 200 角貼
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成 24 年 4 月